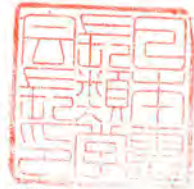


平成 25 年 2 月 26 日

千葉県知事
森田 健作 殿

日本霊長類学会
会長 清水 慶子



千葉県に生息する外来種アカゲザルとニホンザルの交雑防止に関する要望

千葉県房総半島のニホンザルは、千葉県固有の生物多様性の構成要素であるとともに、高宕山生息地が国の天然記念物に指定されている貴重な野生生物です。日本霊長類学会¹⁾は、この自然遺産を守り、地域住民との共存のために積み重ねてこられた貴県のご努力に敬意を表します。

日本霊長類学会は、霊長類の研究、および保護の問題に取り組んでおり、外来種問題は重要な案件の一つです。本学会はアカゲザルやタイワンザル等の外来マカクとの交雑によってニホンザルの遺伝的固有性がかく乱されてしまうことを強く懸念しております。このような問題は、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」で対応が求められ、社会的関心も高い問題であると認識しております。これまで下北半島、和歌山県のニホンザルと外来タイワンザルによる交雑問題が全国的な関心を集め、全てのタイワンザルと交雑個体を捕獲する方向で対策が進められてきました。このような動きの中で、本学会は調査協力など関係県に積極的な支援を行ってまいりました。また、貴県に対しても、2007年1月4日付けにて、「千葉県に生息するアカゲザル等の防除に関する要望」を提出した経緯がございます。

ところで、貴県が最近実施された調査により、房総半島丘陵部のニホンザルの生息地において、半島の突端で野生化しているアカゲザル個体群から移動してきた雄が、ニホンザルの群れに入り込みニホンザルの雌との間に子孫を残していること²⁾、そのようなアカゲザルとの交雑個体が調査個体の1.6パーセントに上ったことが明らかにされました。これは決して小さな数値ではなく、将来にわたって外来遺伝子が拡散していく可能性を秘めた無視できない数値です。ニホンザルの群れ内で交雑個体が子孫を残すことは、これまでどの自治体も経験していない初めての事態です。また、数世代の交雑を経て外見による交雑の判定が難しい個体がいることも明らかになっています。そのため、分散した交雑個体が見落とされる危険が高まり、房総半島のニホンザルのみならず、ニホンザル全体について交雑の危険は増したといわざるをえません。本学会はニホンザルの保全という観点からこれまで以上に大きな危機感を抱いております。

交雑がどの程度進行しているかについての現状把握はまだ不十分です。ニホンザルの分布域全域について現状の評価を正確に行い、それに基づいて管理の最終目標を立て、

対策を迅速に実施する必要があります。現状評価の結果、個体群全体での交雑の浸透が低ければ交雑個体の捕獲と根絶が基本目標となりますが、交雑の浸透が極めて高ければ根絶でなく他地域への拡散防止が基本目標となります。

このような基本目標を立てるため房総半島のニホンザルがアカゲザルの遺伝子の影響をどの程度受けているのか、これまで収集された試料やデータを徹底的に解析するとともに、いくつかの群れでは、群れ単位で交雑の浸透度を把握する等の必要があります。貴県では、予算上の問題から、これまで行われてきた交雑の遺伝的モニタリング事業を平成 24 年度には中止にされました。外見による交雑の判定が難しい状況から、遺伝的モニタリングは必須であり、これを復活、継続する必要もあります。

貴県は、アカゲザルの生息が確認されて以来、モニタリング、捕獲など積極的な対策をとってられました。このことに対して日本霊長類学会は敬意を払うものであります。しかし、状況が深刻化していることが判明した今、房総半島のニホンザルの個体群のみならず種の保全という観点から、抜本的な対策を迅速に実施することが必要です。さもなければ、貴県がせっかく行ってきたこれまでの対策が無に帰すると言っても過言ではありません。そこで、本学会は貴県に対し以下のことを要望いたします。また、貴県がこれらの対策を実施される際には、本学会として協力をおしめないことを表明いたします。

要望事項

1. これまで収集した試料、データを徹底的に解析するとともに、遺伝的モニタリングの手法等により群れ単位での交雑の程度に関する調査を行う等によってニホンザルの生息地全域の現状を正確に評価すること。
2. 上記解析に基づき、交雑防止のための基本目標を定め、アカゲザルの群れの生息地のみならず、ニホンザルの群れの生息地においても本格的な対策事業を早急に立案、実施すること。

<注>

- 1) 日本霊長類学会は、霊長類の研究、保全に関わる学術団体です。詳細は、ホームページをご覧ください。<http://primate-society.com/>
- 2) ニホンザルもアカゲザルも、原則として、雌は生まれた群れで一生を過ごしますが、雄は生まれた群れから出て、ハナレザルになったり他の群れに移籍したりします。

連絡先

大井 徹（日本霊長類学会 保全・福祉担当理事）

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所鳥獣生態研究室内

Tel: 029-829-8257

E-mail: toruoi@affrc.go.jp